

第28回

2017 福祉住宅建築助成実例集

ふれあい



イラスト/株式会社 伝々小社

バリアフリー住宅施工例

公益財団法人

ノーマライゼーション住宅財団

私たちの「願い」

—— 公益財団法人として ——

私たちは、公益に資する法人として、
「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき
高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備、
向上を通して、
すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の
増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため
尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう
心からお願い申し上げます。

自立に向けた住環境の整備を

世界に類をみない超高齢社会に足を踏み入れたわが国では、高齢者が生きがいをもって快適に暮らすことのできる社会づくりが急務です。それにはまず生活の基礎となる住環境の整備が重要と考えます。そして障がい者が地域で暮らし、自立した生活を送ることができる環境作りは、誰もが願う共通の課題です。

平成元年に設立した当財団は、ノーマライゼーションの理念のもとに、建築、福祉、医療、保健など様々な分野の協力をいただきながら、福祉住宅の研究と普及に力を注いで参りました。その成果は、設立以来続けております「福祉住宅建築助成事業」にみるすることができます。その対象住宅を紹介するこの実例集「ふれあい」の発行も、28回目となりました。

今回も各地から多数のご応募をいただきました。それらを見ると、年ごとに福祉住宅の水準が向上していることが感じられます。近い未来には、誰もが安心して暮らせる福祉住宅が一般住宅として普及することを願いつつ、「ふれあい」発刊にあたり、取材にご協力くださいました建築主の皆様、及び選考にご協力くださいました審査委員の皆様に、心からお礼申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 公三

目次

自立に向けた住環境の整備を
（公財）ノーマライゼーション住宅財団 理事長

土屋 公三

自立をあきらめない
家づくりの事例多数

4

身体機能に最大限考慮した
生きがいを感じる住まい

北海道深川市

丁様邸

6

重度の障がいがある息子と
介護する両親の負担を軽減

北海道稚内市

A様邸

8

環境さえ整えば可能な
障がい者の自立生活

宮城県松島町

O様邸

10

様々な身体状況の変化を
想定した工夫いっぱいの家

北海道札幌市

K様邸

12

新築タイプ

第28回の審査委員(敬称略・順不同)

審査委員長

北海道科学大学 名誉教授 菊地 弘明

審査委員

北海道デザイン協議会 名誉会長

大阪 克彦

北海道社会福祉協議会 総務部長

小原 規史

一級建築士事務所西代企画設計 代表

西代 明子

札幌市社会福祉協議会 常務理事

宮川 学

(株)住宅産業新聞社 代表取締役

小西 征夫

北海道新聞 社編集局生活部

平原 雄一

(株)北海道住宅新聞社 代表取締役

白井 康永

リフォームタイプ

20年先まで見越して

安全・快適に過ごせる家

できることを増やして

生きがいを実感できる家

寒暖差といっしょに

使いやすさも大幅に改善

介護する側・される側

双方が安全に暮らせる家

母の安全と自分たちの

将来を考えたリフォーム

障がい者も町の貴重な労働力に

「プロジェクトめむろ」ただいま進行中

北海道札幌市

A様邸

14

北海道札幌市

M様邸

16

神奈川県横浜市

S様邸

18

北海道札幌市

S様邸

20

東京都大田区

Y様邸

22

24

自立をあきらめない 家づくりの事例多数

平成28年度の福祉住宅建築助成事業には、計12の作品に応募をいただきました。今回の「ふれあい」では、そのなかから新築5例、リフォーム4例を紹介させていただきます。年度によって、応募いただく作品には様々な傾向や特徴があります。今回特に多かったのは「自立生活」をテーマにした作品です。

生きる希望につながる家づくり

健康に毎日を過ごしている人でも、いつ障がい者になるかわかりません。不慮の事故、病気などで、突然身体の自由が効かなくなってしまう、あるいは年齢を重ねるうちにゆっくりと身体機能が低下していく。様々なパターンがあります。身体障がい者の場合、もとも障がいのない人が、なんらかの理由で障がい者になる割合のほうが、圧倒的に多いのが現状です。全体のうち8から9割が、生まれつきではなく後天性の身体障がい者といわれています。

身体に障がいがあると、障がいがなかった時よりも生活全般の制限が大きくなつてし

まいます。それは障がいの程度に比例して大きくなります。そのため、重度の障がい者になったがために生きる気力さえも失ってしまう……という人も多いでしょう。

今回は突然身体障がい者になった人が、新たな希望を持つ後押しをするような家づくりを実践した素晴らしい事例が多数含まれています。交通事故に遭い、生活のほとんどが要介護の全身麻痺となった深川市のTさん。身体機能は著しく制限されましたが、生きる喜びを実感できる家づくりを必死で考え、その思いをくみ取った企業が見事に具現化しました。それまでの家では寝たきりだったTさんは、新たなお住まいでの生活を楽しんでいきます。寝ている時間が大幅に減り、毎日屋内で手動の車いすを使ったりハビリにも

懸命に励んでいます。

同じく事故で両下肢麻痺になった宮城県Oさん。車いすに厳しい傾斜地から、平地に新築することで生活は大きく変わりました。もちろん新居は車いすでの生活に万全な配慮がされています。「障がい者になる前と比べても、一切不自由を感じません」とOさんが太鼓判を押すお住まいを建てた会社の



担当者がつぶやいた「環境を改善すれば、障がいがあっても不自由なく生活できるんですね」という言葉が非常に印象に残りました。Oさんは日々自由に車で外出し、新たな趣味の自転車も楽しんでいきます。

進行性の難病で歩行困難な札幌市のMさん。先々身体状況が悪化していく可能性があり、それに対応できるようリフォームしました。杖を使った歩行が厳しくなっていますが、あえて室内は車いすではなく、歩行での移動するようにしました。日常的に体を使い、身

体機能を維持するためです。ご夫婦お二人で生活されていますが、単独で日常生活のほとんどをこなせるようになりました。「障がいがあっても、できることが増えることで、生きる自信につながっていきます」とおっしゃるMさんは、普段からお仕事や様々な活動に、積極的に参加されています。

好きな場所で好きな生き方を

数年前、高齢のご夫婦がリフォームした事例を取材した際にご主人からうかがったお話が忘れられません。その方は身の回りのことはほとんどご自分でこなしていました。簡単な自宅の修繕なども行っており、それが生きがいになっていました。心配している息子さんが同居を勧めていたそうですが、ご夫婦は頑なに拒んでおられました。住み慣れた場所で一生涯を終えたいという強い希望があった

最後まで「尊厳」を持って生きようとする高齢者に応える家づくり、環境づくりは、これからますます大切にされるべきだと強く感じる言葉でした。

今回の事例には、年齢を重ねても充実して暮らしていけるような配慮が行き届いた事例も含まれています。札幌市のKさんは先々の身体状況の変化を見越して、もし車いすが必要になっても生活できる家づくりを目指しました。まだまだお元気なKさんなので、車いすを利用してはいる姿は想像できませんが、独創的な工夫が随所に見られ、安心感と共に生活をエンジョイできる配慮がいたるところに満載です。

施主の皆様が、障がい者あるいは高齢になっても、しっかり自立生活していこうという気持ちの込められた事例が特に多かったのが、今回の応募作全般に見られた大きな特徴です。

のです。「私の父が高齢で一人暮らしを始めるとき、こちらから連絡はしませんでした。必要があれば向こうから連絡が来るんです。父を強く尊敬していたからこそ、あえてそうしていました」。その言葉は心に響きました。

特集では十勝の芽室町が取り組む「プロジェクトめむる」について紹介しています。障がい者が自立生活できる町づくりを目指して2012年からスタートしたこの取り組みは、道内外から注目を浴びています。



身体機能に最大限考慮した

生きがいを感じる住まい



リビングと隣り合っただけで家の中央部に主人のお部屋をレイアウトしました。専用のトイレもあります。ベッドの左右から大きな窓を通して、寝たまま屋外の様子を見ることができます。

寝たままだった生活が新居で一変

ご主人のTさんは交通事故に遭い頸椎を損傷、全身麻痺の重度障がいが残りました。

ケガを負って以来、生活するに際して電動車いすが不可欠になっています。以前のお住まいは電動車いすで移動できる範囲が限られており、自室で寝た状態のまま過ごす時間が多かったそうです。

健康だった人が室内の同じ風景しか眺められなくなるときの辛さは、我々が想像し得ないものです。体の動きが制限されると、室内のよどんだ空気さえも大きなストレスの原因になっていました。日常生活でできることは限られてしまいましたが、障がいがある方も充実した人生を送りたい。Tさんはそ

の想いを実現するべく新築を決断しました。

全身麻痺でも閉塞感、そして不自由を感じ

じないよう配慮され、四季の移り変わりを満喫できるのが新居の特徴です。大きな窓を多用し、室内にいながらまるで野外にいるような解放感があります。リビング隣り合わせになつているTさんの部屋のベッドからも、外の景色が見られるようになっていきます。もちろん家の隅々まで電動車いすでアプローチできるようになっており、外の空気にも触れられるよう、屋内から出入りできる大きなデッキも備えたほか、扉で囲んだ広い庭の大部分も電動車いすで移動可能にしています。

障がいのある人に対する物理的な配慮だけにとどまらず、生きがいや楽しみも尊重した見事な完成となりました。

北海道深川市 T様邸

家族構成	2人	ご夫妻
年齢	共に60代前半	
構造	木造在来工法	
延床面積	249.81㎡ (75.57坪)	
1階床面積	225.46㎡ (68.20坪)	
2階床面積	24.35㎡ (7.37坪)	

設計

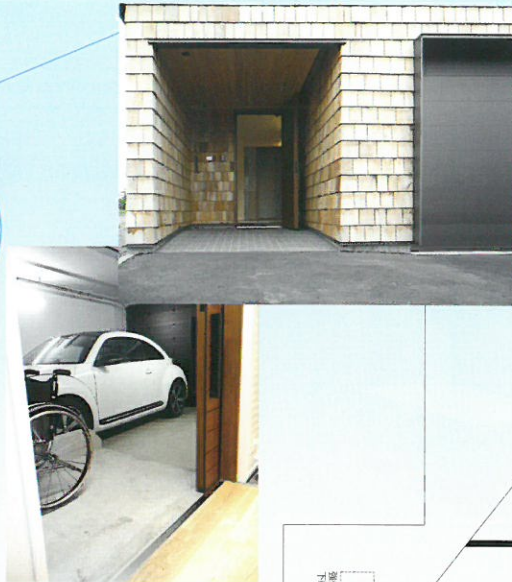
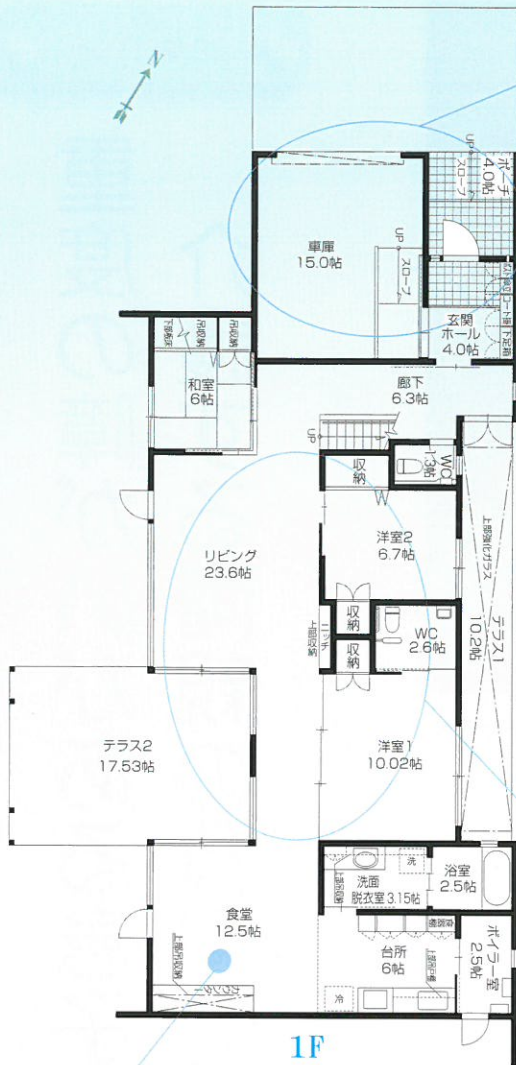
(有)伊達計画所

☎011-622-2849

施工

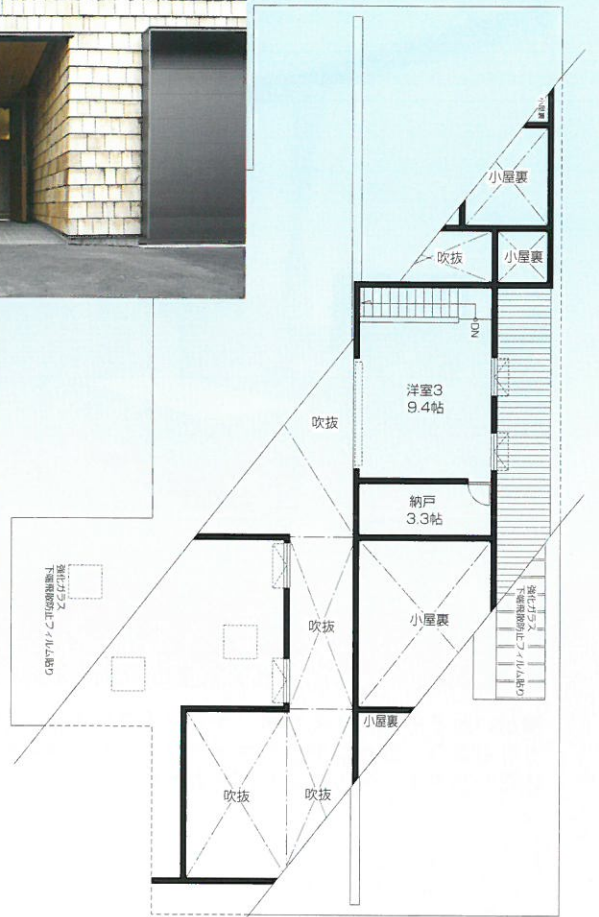
(株)創樹

☎0166-60-3821



～玄関周り～

ガレージから直接ホールに入出入りできます。福祉車両がドアギリギリに駐車ができ、風雨にあたることなく乗り降りできます。



～明るいダイニング～

ご主人の仕事スペースも兼ねたダイニングも採光がバッチリ。リラックスできる空間です。仕事に使うPCが見やすいよう、デザインにも配慮して照明を2つ設置しています。



～大きな窓～

寒さ対策が難しい窓ですが、景観、屋外との一体感を優先して、あえて大きな窓を採用しました。リビングから伸びる長い廊下は、ご主人のリハビリのスペースにもなっています。

POINT

- ◎屋内はもちろん、敷地のほぼ全域に車いすで移動可能
- ◎大きな窓を採用して、屋内にいながら外にいるような開放感



～屋外との一体化～

室内と屋外に一体感をもたせるため、敷地全体を満喫できるような広々としたテラスを、東西それぞれに施工しました。非常時にも有効です。





重度の障がいがある息子と 介護する両親の負担を軽減

障がいがある息子さんを車いすで、あるいは抱きかかえての移動や介護がスムーズにできるよう、様々な配慮がされています。対面式のキッチンからは息子さんの状態を確認できます。先々手すりが必要な場合に備えて各所に下地も施工しています。

課題は抱きかかえたままでの移動

Aさんの息子さんには生まれつきの病気のため発達・肢体不自由などの重複障がいがあり、気管切開、胃ろうからの栄養摂取なども行っているため、24時間誰かがそばに付いて介護する必要があります。

以前住んでいたお住まいは公営住宅で、介護しにくい環境でした。息子さんが幼い間はなんとかこなしていましたが、成長していくに連れて負担が大きくなっていきました。先々のことを考えて、両親・息子さん共々生活の負担が少ない配慮が行き届いた家を新築することにしました。

新築を依頼したのは地元で評判の企業です。バリアフリー住宅の実績も多く、Aさん

ご夫妻もともと信頼を寄せていましたが、お二人の希望を忠実に実現しようとする姿勢が一貫しており、相談を重ねるごとに信頼感が増したそうです。

Aさんご夫妻が最も強く望んだのが、前の家で苦勞していた息子さんを抱きかかえた状態での移動、動作をスムーズに行えるための工夫です。特に車への乗降をしやすくしたり、車から生活スペースへスムーズに移動できる家づくりがメインテーマでした。

その対応としてインナーガレージを採用し、室内までスロープでアプローチを可能に。想像以上の使いやすさにAさんご夫妻は大満足です。屋内は車いすで移動でき、必要に応じて将来2階も活用できるように、エレベーター用のスペースも確保しました。

北海道稚内市 A様邸

家族構成	4人	ご夫妻+ 長男+長女
年齢	40代前半・40代前半	10歳・4歳
構造	木造在来工法	
延床面積	170.58㎡ (51.69坪)	
1階床面積	125.87㎡ (38.00坪)	
2階床面積	44.71㎡ (13.50坪)	

設計

(有)岸設計事務所

☎0162-32-8110

施工

石塚建設興業(株)

☎0162-33-4956

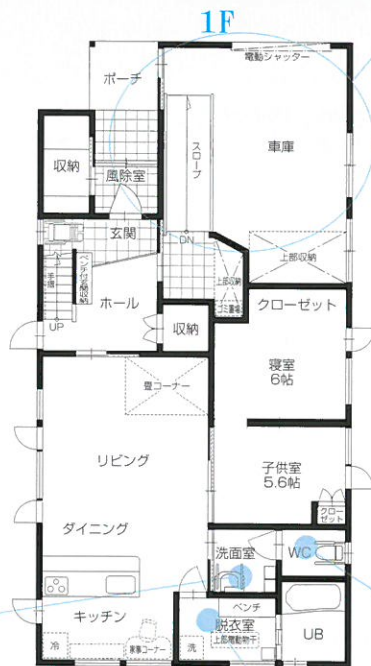
～インナーガレージ～

以前の住まいで苦勞していた、屋外から屋内への移動。インナーガレージにすることでその負担を解消しました。ガレージからホールまで続くスロープは、足への冷たさを軽減するようタイルカーペットを施工しています。人感センサーで点灯する照明は、車いすを押す際にはとても便利です。



～車いすのまま使える洗面台～

車いすに障がいのある息子さんを座らせたまま洗顔や歯磨きなどの介助しやすい洗面台です。



～トイレ用スペース～

先々ご夫妻のご両親と同居することも視野に入れて、トイレスペースを確保。配管済です。現在は物入れとして使用しています。状況に応じて様々に変化する生活スタイルに対応できるようにしているのが、この家の特徴のひとつです。

～ユーティリティー～

息子さんの着替えや身体を拭きやすいようベンチを設置。下のスペースに物を置けるように、開閉式ではなく設置型を採用しました。スロップシンクを設置したら、洗い物などでとても重宝しているそうです。



～トイレ～

介助しやすいよう便器を寄せて設置。必要に応じて子ども部屋側にも扉を施工できるようにしています。また非常用ブザーが設置できるよう配線もされています。

POINT

- ◎抱きかかえての移動や介護の負担を大幅に解消
- ◎将来の生活スタイルの変化にも対応できる様々な工夫

環境さえ整えば可能な

障がい者の自立生活



玄関ドアから車までは往復するように設置して傾斜を緩やかにしたスロープで、楽にアプローチできます。フードを施工したので雨や雪に当たりません。福祉車両も玄関に接近して駐車できます。

平坦な場所への新築で生活は一変

〇さんが仕事中の事故で脊髄を損傷し、下半身に麻痺が残ってから約5年です。現在は車いすを使っています。

以前はこの程新築した場所からすぐ近くの住まいで生活していました。その家の前の通りは傾斜の急な坂道でした。車いすで移動する〇さんにとっては、外出する際大変不便です。その条件ひとつをクリアするだけでも、〇さん日常生活は大きく変わるはず。そう確信して、ご家族の皆さんが協力して新築することにしました。

新居は平坦な場所に建てるのが大前提でした。屋内は車いすで不自由のない環境にするのももちろん、訪問看護やリハビリのた

めの車が停めやすく、〇さんが車に乗降しやすくするなどの希望がありました。

住環境の面以外でも、これまで住んでいた家の引き渡しなどに関連して様々な希望がありました。が、そのすべてに快く応じてくれる会社探しにも苦労されたそうです。

障がいのある住人が不自由なく生活できる家づくりはスタンダードな家づくりよりもシビアに確認すべき点が多くなります。今回依頼した会社はそこをしっかりと理解しており、ミリ単位の見切りが必要な箇所も入念に打ち合わせしながら完成させました。

新居について〇さんは「何ひとつ不便を感じていません」とのこと。環境さえ整えば、障がいがあっても自立生活できることを見事に証明する事例です。

宮城県松島町 〇様邸

家族構成 4人 祖母+ご夫婦+長男(〇様)

年齢 80代前半・60代後半
50代後半・30代前半

構造 木造在来工法
延床面積 135.20㎡(40.97坪)
1階床面積 78.07㎡(23.66坪)
2階床面積 57.13㎡(17.31坪)

設計・施工

(株)土屋ホーム仙台支店

☎022-283-2505

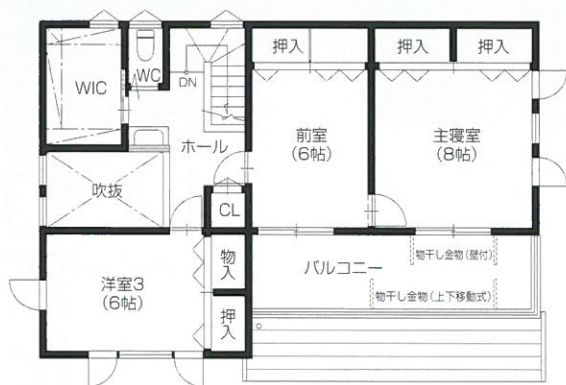
～単独で入浴できる浴槽～

車いすから移乗して、座面を下げるとお湯につかることができるバスシステム。両下肢に麻痺があっても単独で入浴できます。

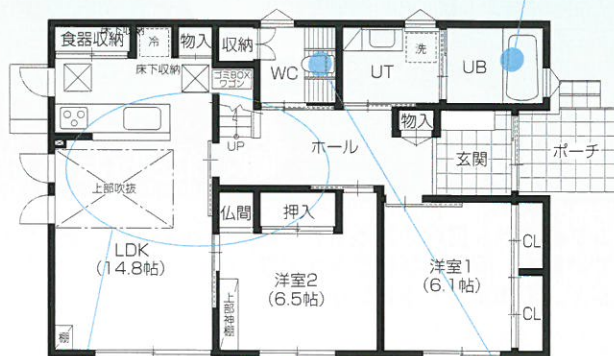


～小さなものへの丁寧な配慮～

車いす座ったまま動かせる換気扇、大きくてつかみやすいノブなど、小さなものへの配慮をしっかりと行うことで、障がいがあっても日常生活でできることは大幅に広がります。



2F



1F



～トイレ～

便器両脇の移乗台はオリジナル。便器が乗る台は、便器をオさんに最も適した高さに調整するための用意しました。何度も微調整して高さを合わせました。



～スイッチ類の位置～

スイッチやコンセントは車いすからも、立った状態でも使いやすい高さになっています。



～ユニバーサルな間取り～

車いすでの移動に不自由しないような間取りは、1階に部屋があるおばあ様も「使いやすくなった」と喜んでおられるそうです。基礎断熱工法で家全体も暖かく、すべてにおいて快適です。

POINT

- ◎車いすですべてのスペースに移動できる1階部分と玄関前
- ◎補助装置や細やかな配慮をすることで自立生活をサポート



リビングの端から屋内を見渡すと、階段をほぼ中央に据えた独創的なレイアウトになっています。階段は圧迫感を出さないよう、手すりや柵などの施行は最小限にしているぶん、視覚誘導する独特なデザインで落下などの危険性を軽減しています。

様々な身体状況の変化を 想定した工夫いっぱいの家

独創的で快適度の高い配慮が随所に

Kさんは長年住み慣れた住まいからすぐ近くの場所に新築されました。

お仕事や趣味をアクティブにこなしているKさんですが、前触れなく発熱したり、体のどこかに強い痛みが走るエリテマトーデスという難病を15年前から発症してしまいました。不意に、動くのさえ厳しい身体状況になります。決断してそれを表には出さず、職場でも我慢して勤務しています。

そうした難病があつても、Kさんは可能な限り自立生活を続けていきたいという希望を強く持っています。この度の新築は、先々高齢になつてからもひとり生活できるための生活環境づくりが目的でした。

Kさんは福祉関連の教員なので、バリアフリー住宅の知識やアイデアは豊富です。そして担当した設計事務所もKさんの要望を的確にくみ取り、Kさんが想像できなかったような優れたアイデアを提案。安全快適に生活できる独創的な工夫が随所に施されています。全ての窓にトリプルガラスを採用するなど寒さ対策も万全です。

もともとご友人の多いKさん。娘さん夫妻や多くの友人知人が頻繁に訪問してきます。そして長年親しんでおられる趣味が楽器演奏。これからも多くの友人知人を迎えられる戸建て住宅というのが大切な条件でした。今回の新築は、そうしたKさんのご要望をすべて実現しました。

北海道札幌市 K様邸

家族構成	非公開
年齢	非公開
構造	木造在来工法
延床面積	134.78㎡ (40.80坪)
1階床面積	88.44㎡ (26.80坪)
2階床面積	46.34㎡ (14.00坪)

設計

アウラ建築設計事務所

☎011-398-5541

施工

北海建工(株)

☎011-512-1010

～玄関の外構の工夫～

先々必要になるかもしれないスロープですが、必要のない現在は花壇しように应用しています。同じくポーチに用意した段差解消機用スペースも、便利な物置き場として使用しています。

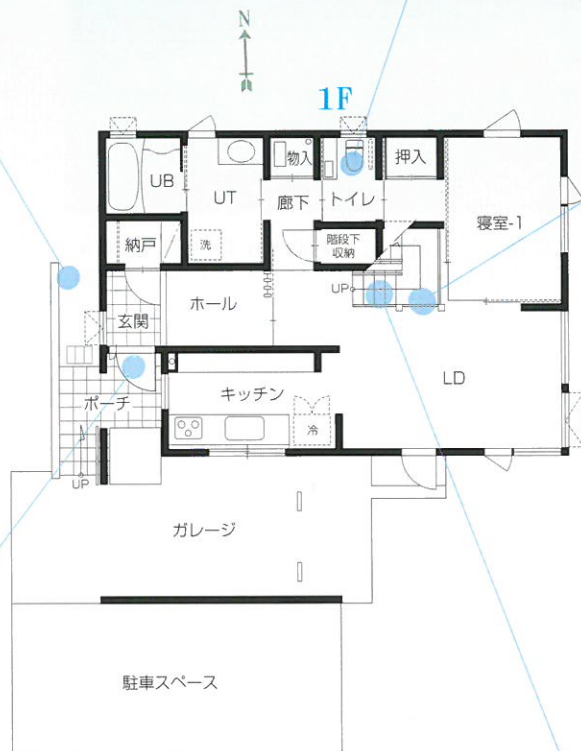


～トイレ～

2方向から入れるトイレは、ドアを開けておけば通路にもなる大胆な配置です。来客の際はドアを閉めますが、日常的には開放しています。24時間換気で臭いなどの悩みはまったくなし。寝室から近いのもポイントです。



※施主様のご要望により
2Fは非公開



～暖房用パネル～

階段からの落下防止柵として機能しつつ、格子状なので圧迫感を軽減しています。



～玄関ホール～

開閉式ではなく、スリッパなどを収められるベンチを配置しました。大きくて使いやすいとのこと。上がり框はホコリの侵入を軽減するため、車いすでなんとか通過できる最小限の段差を付けています。



～独特な階段～

2階も活用する上で階段を重要視しました。圧迫感が出ないよう極力壁で囲わないようにし、万一の転倒に備えて踊り場を設けたり、傾斜も緩やか。カーペットを施工して滑り止めをしています。階段の真下は収納スペースを設け、周囲は回遊式に。その配慮によって、家中どこにでも移動しやすくなっています。



POINT

- ◎あらゆる身体状況を想定した独創的な配慮
- ◎まだ必要のないバリアフリーの準備を現在の生活で活用

20年先まで見越して

安全・快適に過ごす家



扉付きの棚は、実は玄関用。リビングで使用してもまったく見劣りせず、使いやすさも抜群です。価格もリーズナブルなので、コスト削減にもいいアイデアです。段差の解消や引戸の採用で、先々の安心感と共に使いやすさもアップしました。

一年半かけて自らの足で情報収集

Aさんが2人のお息子さんと暮らすお住まいは平成9年に購入されたもので、築約40年が経過。新たな住居を検討する必要が出てきました。

まず、ここ数年冬の寒さが厳しく感じるようになってきました。北海道であれば、1年の半分が寒冷的な季節です。誰もが寒さを解消した家で快適に過ごしたいと考えます。Aさんは健康状態は良好ですが、高齢になれば寒さや屋内の寒暖差がもたらす健康面への影響も無視できません。また除雪も齢を追うごとに、ますます厳しく感じるようになってきました。

そして、ここ数年は白アリも出てくるよ

うになっていったそうです。土台などが腐食している危険性が高く、早急に対策を講じなければなりませんでした。

先々の身体状況の変化なども合わせて考えると、サービス付き高齢者住宅への転居なども選択肢のひとつでした。しかし長年生活してきた現在の場所は親しいご近所付き合いがあり、生活環境も気に入っています。建物内部の老朽化などを考慮し、建替えという結論に達しました。

特にお付き合いのある企業が無かったAさんは、一年半かけてたくさんモデルハウスや機器メーカーの展示場を巡って情報を集めたそうです。とにかく「全て自分の目で確かめたこと」が功を奏して、自己採点「120点」という大満足の完成となりました。

北海道札幌市 A様邸

家族構成	3人 主婦(A様) +長男+次男
年齢	60代後半・40代後半 30代後半
構造	木造在来工法
延床面積	132.78㎡(40.08坪)
1階床面積	66.39㎡(20.04坪)
2階床面積	66.39㎡(20.04坪)

設計・施工

ケイアイコーポレーション(株)

☎011-668-8778



～カーポート～

玄関に続く駐車スペースを覆うカーポートを設置したので、玄関周りの除雪の手間がほぼ無くなりました。もちろん雨や雪に当たらず車に乗降できます。



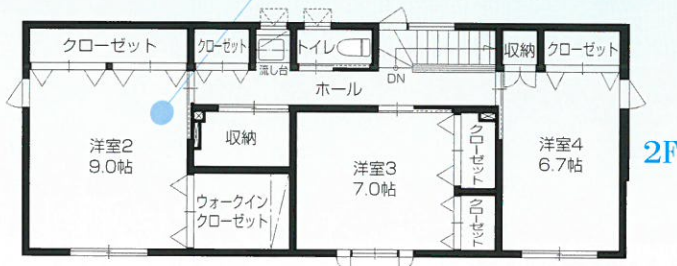
～2階の寝室～

大きなウォークインクローゼットがある寝室は、先々収納専用スペースとして活用できます。



～段差解消と引戸の採用～

バリアフリーの大切な要素である段差解消はもちろん、全ての扉に引戸を採用しました。



～キッチンと勝手口～

キッチンは使い慣れているL字型を採用。駐車場からすぐの勝手口からは、買い物した食材などを車から運び込むのに大変便利です。



～寝室を想定した洋間～

先々2階への上り下りが大変なることを考慮し、寝室を想定した洋間をリビング横にレイアウトしました。床の間があり、一般的には和室にしつらえるケースが多いですが、あえてフローリングに。トイレにアプローチしやすいようドアも施工しました。

POINT

- ◎現在1階と2階に分けている機能を1階に統合できる工夫
- ◎除雪の手間を大幅に軽減
- ◎勝手口を施工して、キッチンへの荷の出し入れがスムーズに



隣り合う2つの洋間を1間にしてリビングのスペースを大きくしました。ソファやテーブルなどを配置して、現在Mさんは、室内では車いすを使わず、歩行することで体力と機能の維持をするよう努力しておられます。

できることを増やして 生きがいを実感できる家

難病でも前向きに生活できる環境を

Mさんは12年前に脊髄の進行性難病を発症。以来両下肢麻痺が続いています。

3人の子どもは独立し、現在はご主人と2人で生活しています。お住まいのマンションは、病気が発症したばかりの頃に1度リフォームしました。その時期は杖を使って歩行が可能でしたが、年数が経つにつれ困難になり、屋外での移動には車いすが必要になりました。身体状況の変化を見越して、先々も自立生活ができる環境づくりのため、このほど2度目のリフォームを行いました。

日頃からお仕事だけでなく様々な活動にも積極的に参加されているMさんは、障がいがあっても、自分でできることをひとつでも

北海道札幌市 M様邸

家族構成 2人 ご夫妻

年齢 60代後半・50代後半

構造 RC造(マンション)
建築面積 81.83㎡(24.75坪)

設計・施工

(株)愛夢

☎011-872-2718

増やすことが、生きがいにつながることを確信しています。今回のリフォームの目標は「Mさん単独でも生活に必要な作業を、可能な限りこなせる環境にすること」でした。設計・施工会社は、以前からMさんとお付き合いがあり、大規模な病院や施設の実績も豊富。1度目のリフォームも依頼しています。

無事工事が完成した直後、なんとご主人が転倒し、大腿骨骨折でしばらく入院することに。その間Mさんの独居が続きましたが、生活に必要な作業を、なんとかこなすことができました。目標通りのリフォームを達成できたことを実感できました。

ご主人も無事退院され、新しくなったお住まいでの生活を、ご夫婦一緒に満喫されています。



～アイデアいっぱい～

以前使用していたベンチ収納を半分に撤去した際に余った天板を棚に(写真左)。ホームセンターなどで販売している移動式ワゴンは、歩行器の代わりになります。物を運ぶのにとっても便利です(写真右)。

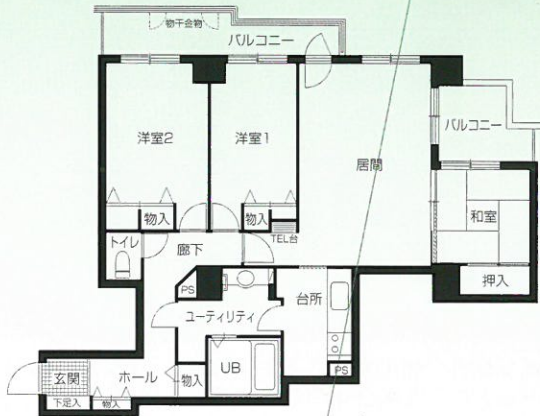
～手すり、
身体を支える台～

手すりの端部の下に、手を付いたり座ったりできるように小さな台を設置。床には転倒に配慮してコルクの床材を施工しています。



～トイレ～

タンクレス便器を採用して空間を広くしたトイレ。L字型の手すりや、下地を入れて取付けた台付きのペーパーホルダーに手を付くことで、立つ・座るの動作がしやすくなりました。



～befor～



～after～



～手作りのスロープ～

Mさんの外出や、車いすの友人が来たときにも使用できるスロープも、ベンチ収納の天板の廃材を再利用しました。



～浴室～

引戸を採用して開口を広く取り、浴槽を低くして入りやすくしました。同じ高さのバスタチェアと手すりを使えば単独でも入浴できます。



～洗濯できる動線～

物干し場としても活用している浴室の扉と同じ向きにドラム式洗濯機を正面を向けて設置し、Mさんが座ったままでも洗濯が可能に。浴室は乾燥機能が付いているので、洗濯物もしっかり乾かすことができます。

POINT

- ◎使う人の身体状況を的確に見極め、家の隅々まで細かく配慮
- ◎一般的な家具などを、歩行の補助具として活用している



廊下だった部分とリビングを一体化することで開放感いっぱいになりました。懸案事項浴室の寒さ対策といっしょに、1階全体の使いやすさも大幅に向上させました。柔らかな白を基調にしたデザインが、ゆったりとくつろげる雰囲気演出しています。

リフォーム type

寒暖差といっしょに 使いやすさも大幅に改善

浴室をきっかけに家中全てを改修

ご夫婦共にお元氣なSさんご夫妻がこの
 程リフォームしたきっかけは、耐え難い程厳
 しかった浴室の寒さです。周囲の緑が美しい
 場所に新築されたとき、お風呂につかりなが
 らその風景を愛でたいと考え、大きな窓を施
 行しました。しかし窓は冷気が入りやすい
 箇所です。寒い季節はその窓から入ってくる
 冷気のため、浴室だけでなく隣接する洗面
 所やトイレ、玄関まで続く廊下も、かなりの
 寒さだったそうです。

リビングとそれらのスペースはヒートショ
 ックが心配になってしまうほどの寒暖差もあ
 りました。お2人が齢を重ねれば、よりリス
 クは高まります。そうした懸念を解消する

ためにリフォームを検討しはじめました。
 せっかくリフォームするのなら、浴室以外も
 改善したいと考えたお2人。各スペースの境
 目にあつた段差を解消するバリアフリー、そ
 して狭さを感じていたりリビングを広くした
 いという要望も出てきました。地域の住宅関

連の協会を通じて複数の企業の紹介を受
 け、各社にその要望を投げかけてみたところ、廊下だったスペースをリビングに取り込
 んで広げるといふ提案をした唯一の会社があり
 ました。高い断熱技術を用いてこそ可能
 なその提案に感銘をうけたお2人は、迷わ
 ずその会社にリフォームを託しました。

暖かく、動線などの機能面の快適性と共
 に、デザイン性もパーフェクトの完成度を実
 感されているSさんご夫妻です。

神奈川県横浜市 S様邸

家族構成	2人	ご夫妻
年齢	非公開	
構造	木造在来工法	
延床面積	104.12㎡ (31.55坪)	
1階床面積	47.32㎡ (14.33坪)	
2階床面積	37.52㎡ (11.36坪)	

設計・施工
 (株)土屋ホームトピア
 横浜支店
 ☎045-913-1995



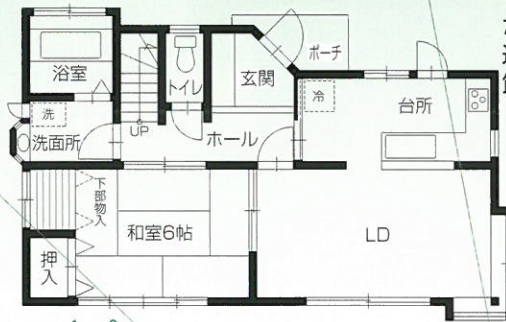
～浴室～

スペースを広げ、より快適になった浴室からの見晴らしは最高です。ユニットバスを採用したほか、窓も断熱仕様にするなどの配慮で暖かさはバッチリです。



～二重サッシを採用～

南側に向けた大きな窓に二重サッシを採用することで断熱性を上げました。冬の寒さだけでなく夏の暑さも遮断し、暖房費や電気代が驚くほど節約できます。



※リフォームした1F部分のみ紹介しています



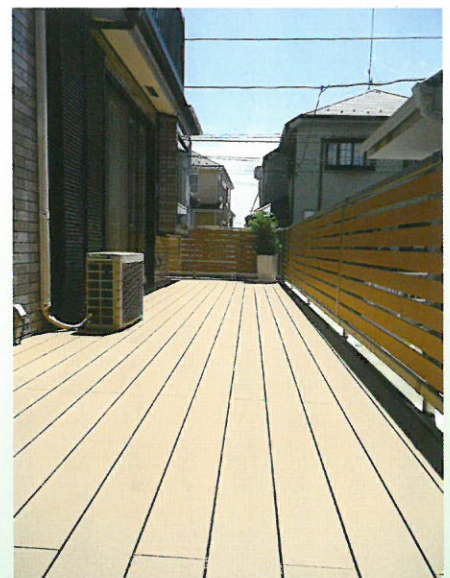
～家事に優しい動線～

間仕切りを撤去し、浴室や水回りからトイレ、ウッドデッキまで一直線につなげる動線を確保し、家事のしやすさが格段に向上しました。



～玄関を開放的に～

スペースを広げ、上がり框をアール状にすることでより開放的になっています。



～生活動線に活用するデッキ～

家の南側、端から端まで続く広々としたウッドデッキはご近所さんとコミュニケーションを取りやすいスペースというだけでなく、日常の生活動線としてもしっかり機能しています。

POINT

- ◎暖かさに配慮した断熱対策
- ◎開放感と使いやすさを生み出した巧みなアイデア
- ◎優れたデザイン性

介護する側・される側

双方が安全に暮らせる家



1階は段差を全て解消しました。車いすでスムーズに移動できるよう、数カ所に設けた開口部は、全て引戸を採用しています。手軽に家具の位置を変更できるよう、ご主人が手作業で全ての家具にキャスターを取りつけました。

バリアフリーの大切さを改めて認識

Sさんの奥様は5年程前に脳出血で倒れました。運よく一命をとりとめました。右半身に麻痺が残ってしまいました。懸命にリハビリを続けていますが、車いすが欠かせません。車いすを停めたその場ではなんとか立つことができず、歩行は困難です。

お子さんが独立されて以来、ずっとお2人で生活されてきたSさんご夫妻。ご主人は80歳を越え、奥様も後期高齢者ということもあり、身体状況を考えると施設への入所という選択肢もありました。しかし、住み慣れた家で暮らしたいという願いが強いお2人。ご主人が介護しながら現在のお住まいで生活していこうと決めていました。

Sさんは現在80歳を越えたばかりですが、背筋がピンと伸び、とても年齢を感じさせない若々しさです。20代の頃から独学でボディービルに取り組み、60代まで続けていたそうです。

そんな頑強なSさんでも奥様の介助は大変でした。車いすではアプローチできない場所への移動は、Sさんが支えながら少しずつ歩行しなければなりません。その歩行中バランスを崩し一緒に転倒してしまい、しばらく起き上がれなかったこともあったそうです。

今回のリフォームで介護のしやすさが大きく改善されました。従来の家づくりでは介護が困難であること、長く住み続けるためにもバリアフリーは大切であることを、改めて認識できる事例でした。

北海道札幌市 S様邸

家族構成 2人 ご夫妻

年齢 80代前半・70代後半

構造 木造在来工法
延床面積 98.50㎡ (29.84坪)
1階床面積 50.30㎡ (15.24坪)
2階床面積 48.20㎡ (14.60坪)

設計・施工

(株)土屋ホームトピア
ノーマライゼーション支店

☎011-896-3310



～キッチンを移動～

キッチンリビング側に移動し、できたスペースに車いすのまま入ることができるトイレを施工しました。



～浴室・トイレ用開口部～

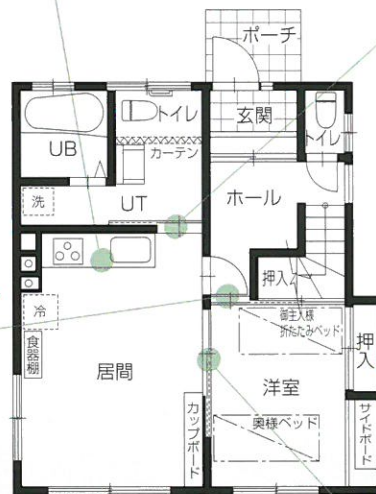
間仕切りを撤去して、新たに設置したトイレに車いすのまま移動できるように引戸を施工しました。

～befor～



※リフォームした1F部分のみ紹介しています

～after～



～玄関と寝室をスムーズに移動～

車いすのまま玄関と寝室を直接行き来できるよう、引戸を設けました。



～ふすまの位置を変更～

奥様を車いすに乗せたまま出入りさせやすいように、寝室のふすまの位置を変更しました。

POINT

- ◎車いすでの移動を考えた間取りの変更
- ◎段差の解消と引戸の採用



段差をすべて解消し、要所には引戸を採用。間仕切りを撤去することで開放感を取り入れると同時に、移動しやすい動線が生まれました。まだまだお元気なYさんご夫妻にとっても、大変使いやすく快適になったそうです。

母の安全と自分たちの 将来を考えたリフォーム

制約の多いマンションを快適リフォーム

東京湾からほど近い、昔ながらの風情が漂う魅力的な場所にあるYさんご夫婦のお住まいはマンションの1階です。

そのお住まいにはお母様が1人で暮らしていました。お母様が年齢を重ねるにつれ、不便や危険を感じる点が出てきました。

例えば玄関や、室内の随所にあった段差です。以前はまったく気にならなかったのですが、お母様が時折そうした段差に足を取られることが多くなりました。「高齢になると、カーペット1枚ぶんの段差でもつまずくようになる」と聞いていたYさんご夫婦ですが、お母様のそうした様子を見て、決して大げさでないことを実感したそうです。

そのほか、箇所によってはドアの開く方向などにも不便さを感じるようにもなりました。トイレはもともと内開きでしたが、お母様もYさんご夫婦も使いにくいと思っていたそうです。

お母様が安全に生活できるようにということはもちろん、将来暮らす自分たちが快適に生活できることも考え、リフォームすることに決めました。

当初の課題だった段差の解消、引戸の多用などは全てクリア。お母様は完成後程なく逝去され、現在はご夫婦で静かに暮らしていらっしゃいます。すぐ近所に住む娘さんがお孫さんと一緒に頻繁に来られますが、みんなでにぎやかに過ごすのに十分な解放感もあります。

東京都大田区 Y様邸

家族構成 2人 Yさんご夫妻

年齢 非公開

構造 RC造
建築面積 119.00㎡ (36.06坪)

設計・施工

(株)土屋ホームトピア

世田谷支店

☎03-3707-5422



～キッチン周りの解放感～

リビングだったスペースをキッチン・ダイニングに変更しました。流し台周りがとっても広々なので家事が楽になり、新たに設けたリビングとも一体感があります。



～引戸への変更～

既存のドアを可能な限り引戸に変更することも課題でした。特に使いにくかったトイレも、引戸にすることが格段に使いやすくなりました。



～befor～



～ダイニング～

娘さんのご家族が来て、余裕を持ってくつろげるスペースのダイニング。

～after～



～二重窓～

断熱効果が高いため冷暖房費がかなり節約できます。



～通路と部屋を一体化～

独立していた洋間を廊下と一体化し、移動しやすい動線を生み出しました。洋間には衝立を置き、ご主人のプライベート空間も確保しています。



～収納をオープンに～

収納をオープンな物置スペースにすると、より室内が広く感じるようになりました。

POINT

- ◎既存の生活スペースを大胆に変更して開放的に
- ◎段差の解消と動線への配慮で安全・快適に

障がい者も 町の貴重な労働力に



展望台から見た芽室町美生地区の眺望

「プロジェクトめむろ」 ただいま進行中



十勝の芽室町は2012年から「誰もが、当たり前のように働いて生きていける町」を目指して画期的な取組みを始めました。「誰もが」の中には障がい者も含まれます。障がい者が働くことで収入を得て、そのお金で自立生活を営むことができる町へ。「プロジェクトめむろ」と名付けられたその取組み取材しました。

障がい者が労働力の中心を担う九神ファーム

人口1万8千790人の芽室町は農業の町です。農業を基幹産業とする市町村が多い道内において、畑作中心の芽室町は作付面積や収穫量がトップクラス。後継者問題その他多くの悩みを抱える農業地域は多いですが、芽室町は安定した経営の大規模な農家に支えられている、まさに「農業王国」です。

芽室町の中心部から車で約20分、美生地区に「九神ファームめむろ(以下九神ファーム)」があります。3ヘクタールの畑、少し離れた場所には野菜を加工する工場があります。

九神ファームは従業員28人。そのうち知的障がい、精神障がい、発達障がいなどの診断を受け、23人が手帳を所持しています。サービスを利用しているのは19人で、そのうち7人が重度の判定を受けています。

九神ファームは就労継続支援A型事業所なので、働く皆さんは国の定義上「サービス利用者」という位置づけです。しかし1人を除く皆さんは午後5時までフルタイムで働き、休みは月に8日。1人当たりの月収は約11万5千円です。年金と合わせれば自立して生活して

いくことができる金額です。皆さん社会保険にも加入しており、立派な「従業員」としての待遇が用意されています。

勤務開始は午前9時30分。朝礼が済むと、各自持ち場に立って黙々と作業を始めます。皮むきやパッキングといった農作物の加工が主な業務です。日や時間帯によって仕事の内容も変化しますが、誰もが難なく対応します。利用者の皆さんの中には、前記したように重度障がいの判定を受けている人もいます。しかし、作業に取り組んでいる姿からは、誰が重度障がいなのかはまったくわかりません。そこには労働者が目の前の仕事に取り組み一般的な工場と、なんら変わらない風景があります。

九神ファームは障がい者の労働力が収益を上げる原動力であり、労働に対して給料や保障を還元しています。そうした環境に身を置くことで自分の役割を自覚し、生きがいを感ずることで、向上心と責任感を持って真摯に仕事に取り組み。九神ファームではそうした障がい者の姿を見ることが出来ます。

発達障がいと診断され、長い間引きこもりだった従業員の1人は、九神ファーム創業時から熱心に勤務し、2年前には障害者手帳を返

納したそうです。現在は指導員として、より責任のある立場をまかされています。

最低賃金を支給して自立に導く

障がい者が就労している事例は全国にたくさんあります。しかし自立生活ができる賃金が支払われている事例は限られています。九神ファームは貴重な例外のひとつですが、芽室町では同様の就労場所をさらに拡大していく計画です。それが「プロジェクトめむろ」です。この計画を、先頭に立って牽引しているのが宮西義憲町長です。



朝礼で一日がスタート。朝礼が済むと、各自素早く持ち場にスタンバイ。一般的な工場となんら変わらない風景。

地元ご出身の宮西町長は高校卒業後すぐに役場に就職。平成8年からは教育長として、障がいのある子どもたちを乳幼児から就労期まで支援する「発達支援システム」という町独自



プロジェクトめむろの心臓部「九神ファーム」の工場では、野菜などを加工・出荷がメイン。全ての従業員に給与を支払えるだけの収益があり、その労働を障がい者が担っている。



の仕組みを作るなど、熱心に地域の障がい児支援に関わってきました。しかし義務教育が終了すると、行政が行える障がい児支援の範囲は狭まらざるを得ません。そこで町長に就任後、芽室町を「誰もが、当たり前前に働いて生きていける町」にするべく奔走し、「プロジェクトめむろ」がスタートしました。

プロジェクトの核になるのは、障がい者が就労できる環境づくりです。しかし「プロジェクトめむろ」が目指したのは、従来の福祉型雇用ではなく、障がい者でも最低賃金を得ることができる就労環境の構築です。



地元農家から借りている3町歩の土地ではクックチャムの需要に応えられるだけの生産ができないが、不足分はJAの協力で補っている。さらなる農地の確保が課題。

まず、障がい者雇用の実績がある企業を探しました。当初はいくつもの企業に「芽室町にも障がい者が働ける場所を…」と陳情しましたが、断られ続けました。しかし、その宮西町長の奮闘を知った厚労省の職員が、広島に本社を置き全国展開している食品トレー容器メーカー、(株)エフピコの特例子会社・エフピコダックス(株)との縁をつないだそうです。同社は従業員の7割に障がい者を雇用しているという実績のある企業です。

このエフピコダックスと取引のある(株)クック・チャムが「プロジェクトめむろ」に関心を示しました。愛媛に本社を置く惣菜やおかずの製造・小売りメーカーで、優良な食材を求めており、障がい者雇用も実績があります。同社からの出資を得て、九神ファームが設立。障がい者9人を雇用し、2013年から稼働しました。

多様な業種への就労拡大を目指す

九神ファームを中核にして「プロジェクトめむろ」は次の展開も目指しています。ひとつはさらなる就労場所の拡大です。

芽室の市街地に「ばあばのお昼ごはん」をオ

ープン。そこには現在、3人の障がい者が働いており、うち一人は支援員です。九神ファームの工場や農場で働いて自信を付けた利用者さんが、施設外就労という枠組みに基づいて仕事をしています。

九神ファームのすぐ近くにある国民宿舎「新嵐山荘」には、ベッドメイクなどの作業も担当。清掃部門に1人、契約社員として就労しています。

町は都市部を中心とした特別支援学校の誘致を計画しており、新嵐山荘ではホテル業務などのおもてなし体験を、障がい者がアテン



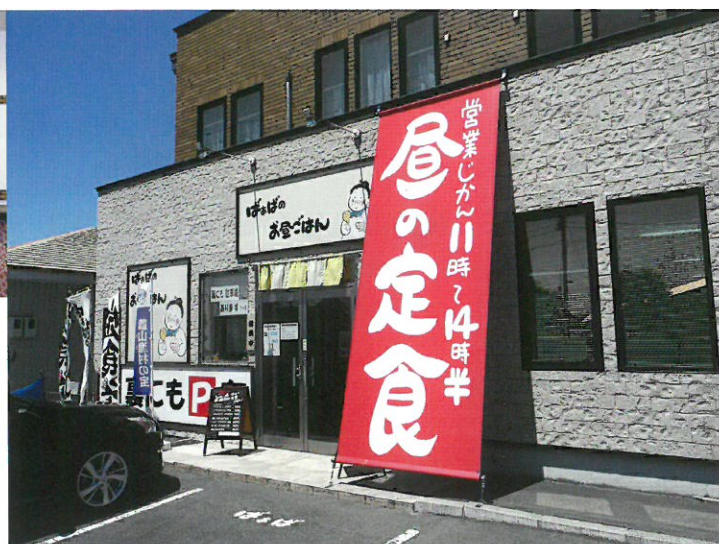
「新嵐山荘」で働く障がい者は、アテンド役として町が計画する特別支援学校の誘致を手助けできる貴重な存在。

ド役となり、働く力や想いを伝える「就労キャリア教育観光事業」に取り組んでいます。

今後も障がい者が働ける場所の拡大を目指し、企業に対する障がい者雇用に対する取り組みをPRしていく予定ですが、プロジェクトのスタート時から一貫しているのは、障がい者が保護の対象とされるのではなく、「いかに企業の戦力となるか」ということに主眼を置くことです。企業は利益上げることが絶対的な条件です。教育面その他を工夫することで、障がい者は優れた労働力となり得ます。「障がい者だから何もできない」というのは、あきらかな間違いです。九神ファーム、協力企業、そして50年以上もの障がい者雇用の実績がある日本理化学工業(株)など、国内の企業の取り組みによって、障がい者でも企業に貢献できる労働力となり得ることが実証されています。障がい者が企業の戦力として機能してこそその「プロジェクトめむろ」です。

「プロジェクトめむろ」ではさらに就労場所を増やしていくのと並行して、次なるステップとして障がい者が独立して生活できる環境づくりも目指しています。また障がい者だけでなく、リタイアした農家さんを農業指導員で

迎え入れるなど、高齢者が仕事や活動ができる環境づくりも、障がい者の就労機会の拡大と並行して取り組んでいます。



「ばあばのお昼ごはん」は連日品切れ続出の人気ぶり。美味しく愛されるメニューを提供するという飲食店の基本を、障がいのあるスタッフが忠実に守っている。

改題した号も含め「ふれあい」は、おかげ様で今回28回目の発行をさせていただくことができました。改めて関係者の皆様に対して、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回の福祉住宅建築助成事業には、住む人がより生きがいを感じられるよう、隅々まで配慮された作品が多く紹介されています。人は高齢になっても、そしてどれだけ重い障がいを持って、「人生をやすらかに、豊かに過ごしたい」という気持ちは変わりません。機能面の充実と共に、そうした点を重視した福祉住宅がもっともっと普及していくことを願ってやみません。

優れた福祉住宅は、建てる企業側がそうした点をどれだけ重視できるかによって、完成度やお客様の満足度がまったく異なってきます。今回は多数の成功事例を紹介させていただくことができたと自負しております。

今後も様々な施主様、企業様のアイデアが詰まった作品をご紹介させていただき、福祉住宅の普及に少しでも寄与させていただく所存です。

(公財)ノーマライゼーション住宅財団

第28回

2017 福祉住宅建築助成実例集

ふれあい

公益財団法人

編集・発行

ノーマライゼーション住宅財団

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9F

電話(011)613-7551 FAX(011)612-8431

<http://www.normalize.or.jp/>

2017年8月発行

すべての人にやさしい住まいの環境を考える
Normalization Housing Foundation

平成29年度

福祉住宅・福祉小規模集合住宅

バリアフリー

建 築 助 成



「すべての人が共に暮らし共に生きることがノーマル(正常)である」というノーマライゼーション理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全・安心で快適に暮らせる住生活環境の整備・向上のため、助成金により福祉住宅の建築を支援いたします。

助成の対象者

高齢者や障がい者が安心して暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築やリフォームした建築主
福祉住宅：新築(バリアフリーにした物件)やリフォーム(住宅内外の手すり・スロープ・トイレ・浴室等)の住宅改善・改修した建築主
福祉小規模集合住宅：グループホームや高齢者向けアパートなど(10名程度居住)の建築主

対象物件

原則として平成28年12月以降に工事が完了した物件

助成金

1件あたり5万円～最高30万円まで(ただし、総額300万円の範囲内)

応募方法

設計士、施工会社、医療・介護関係機関などのアドバイスを含め、福祉住宅・福祉小規模集合住宅として工夫・配慮した点などを、当財団所定の申請書(当財団ホームページからダウンロード可)に記入し、写真添付のうえ提出。
リフォームや改修工事の状況場所がわかるように、施工前・施工後の写真を添付

審査

当財団委嘱の有識者による審査委員会にて、今後の参考に資する施工物件を選考(選考された案件の設計士、施工会社様には感謝状を贈呈)

応募期間

平成29年5月1日～平成29年11月30日(必着) 年1回公募

決定および支給

発表：平成30年2月(書面にて連絡) 支給：平成30年3月
※助成対象物件は、当財団発行の福祉住宅助成実例集『ふれあい』に掲載させていただきますので、事前に取材の承諾をお願いいたします。


応募 問い合わせ先

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団
〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9F
TEL: 011-613-7551 FAX: 011-612-8431
<http://www.normalize.or.jp/> E-mail: zaidan@tsuchiya.co.jp



主催 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

後援 北海道 社会福祉法人北海道社会福祉協議会
札幌市 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 北海道デザイン協議会



福祉住宅の実例、財団の活動に関しては
ノーマライゼーション住宅財団のホームページをご覧ください

<http://www.normalize.or.jp/>